

商品に込められたメッセージをパッケージが伝える

人の心を動かす 紙器製造会社

富士紙器印刷

「皆さんも一度はうちの製品を見た手に取ったりしていると思いませんか」。富士紙器印刷（横浜市鶴見区駒岡、近藤哲史社長、045・582・9111）は、昭和5年に台東区に紙器加工所を開業し、現在は本拠地を横浜市の鶴見に移し、2つの製造工場を抱える紙器製造業者である。お菓子、食用品、工具等の化粧箱の企画デザイン、CADシステムを使っての構造設計から印刷加工、貼箱製造まで一貫して社内生産することにより、

商品の価値、品質を高める努力を日々行っている。その他にも包装紙・カタログ・チラシ・シール・ポスター・タペストリー・ファイル・各底袋・手提げ袋・封筒・ポリ袋・PP袋・不織布袋・成型トレイ・プリスターパック・スライドパック・丸紙管・角紙等々：非常に多くの商品を手掛けている。

また、今年の8月5日（ハコの日）、東京紙器工業組合展で同社の製作した作品が見事理事長賞を受賞した。このような功績を残せた

のも、同社が顧客との入念な打ち合わせを通じて、その要望に臨機応変に対応することができる一貫生産体制を敷いている点にあると言える。その上、大手企業にはできない多品種少ロットでの受注もでき、納期や納入方法も顧客の要望通りに提供できるから便利。短納期でもそのディテールには定評があり、ブランド品の化粧箱や高級和菓子店などの複雑でおしゃれな商品の注文が多い。

同社のモットーは「心を動かすもの創り」。「商品に込められたメッセージをフォルムとグラフィックで表現し、パッケージが伝えることで思わず手に取りたくなる。そのようなパッケージ創りを目指している」と近藤社長は話す。実際、同社の商品は日常誰もが目にしたことのあるものが多い。

近藤社長は、「常に顧客の立場になってものごとを考えている。要望以上の提案をすることで、お客様に喜んでもらいたい。パッケージで人を幸せにしたい」と語る。



食用品パッケージの多くを同社は手掛けている



家をイメージしたパッケージ素材

る。どんな状況にも顧客最先で突き進む同社の確固としたスピリットは、決して揺らぐことがない。